

令和8年10月23日

文化庁主催 国際シンポジウム

「文化芸術を支えるフロンティア～ファンドレイジングが拓く自律的・持続的な運営モデルの構築に向けて～」を開催します

文化庁主催 国際シンポジウム







Axel Rüger
Director, Frick Collection

大橋 達也
東京国立博物館
経営企画室 ファンドレイジング担当

菅谷 富夫
国立美術館長

Alisia Romanin
Executive Director of Development,
Arts Centre Melbourne

吉見 俊哉
国学院大学教授
| モデレーター |

Date

2026.11.19

Venue

東京国立博物館 平成館大講堂

Time

14:00-17:00 Open 13:30

文化芸術を
支えるフロンティア

ファンドレイジングが拓く
自律的・持続的な
運営モデルの構築に向けて

主催 |  文化庁 共催 |  myriad usa 協力 | 東京国立博物館・国立アートリサーチセンター・公益社団法人企業メセナ協議会

近年、文化施設や文化芸術団体においては、寄附や協賛などを通じた資金調達（ファンドレイジング）への関心が高まっています。文化芸術活動を継続・発展させるためには、多様な財源の確保と、それを支える人材の育成やネットワークの形成が重要です。一方で、多くの文化施設や文化芸術団体では、資金調達の必要性を認識しながらも、ノウハウやネットワーク、専門人材が十分ではないという課題を抱えています。

このため、文化審議会文化経済部会においては、文化芸術への民間資金の流入促進をはじめとする自律的・持続的な文化芸術活動を支える基盤の在り方について議論が行われております。また、国立アートリサーチセンターにおいても、令和7年に美術館の持続可能な運営モデルをテーマにしたシンポジウムが開催されるなど、寄附・寄贈や民間支援の可能性をめぐる議論も広がりを見せております。

こうした動向を踏まえ、文化庁及び文化芸術分野への寄附促進を支援する Myriad USA（読み方：ミリアド・ユーエスエー）はシンポジウム「文化芸術を支えるフロンティア～ファンドレイジングが拓く自律的・持続的な運営モデルの構築に向けて～」を、令和8年11月19日（木）に開催します。

本シンポジウムでは、ロンドンの王立美術院館長及びアムステルダムのゴッホ美術館館長を歴任し、現在はニューヨークのフリック・コレクション館長を務めるアクセル・リューガー氏やアーツ・センター・メルボルの開発担当エグゼクティブ・ディレクターを務めるアリシア・ロマニン氏をはじめ、文化芸術分野のファンドレイ

ジングに豊富な知見を有する国内外の専門家をお招きし、寄附や協賛、会員制度、国際的なフィランソロピーなど、多様な支援の実践事例や知見を共有するとともに、文化芸術活動の自律性と持続可能性の向上に向けた方策や、文化芸術を支える新たな支援の循環とパートナーシップの可能性について議論を深めます。

本シンポジウムは参加無料です（要事前申込）。皆様のご参加をお待ちしております。

■ プログラム概要

- タイトル：文化庁主催 国際シンポジウム「文化芸術を支えるフロンティア～ファンドレイジングが拓く自律的・持続的な運営モデルの構築に向けて～」
- 日 時：令和 8 年 11 月 19 日（木）14:00～17:00（開場 13:30）
- 会 場：東京国立博物館 平成館大講堂〔東京都台東区上野公園 13-9〕
- 定 員：300 名
- 主 催：文化庁
- 共 催：Myriad USA
- 協 力：東京国立博物館、国立アートリサーチセンター、公益社団法人企業メセナ協議会
- 参加方法：申込フォームよりお申し込みください。
<https://forms.cloud.microsoft/r/kX6chGGHsd>
（申込締切：令和 8 年 11 月 12 日（木）12:00）
※定員に余裕がある場合は、期日以降も申込を受け付けます。
- そ の 他：同時通訳あり



※本事業の運営は、文化庁委託事業として PwC コンサルティング合同会社が受託しています。

■ タイムテーブル（予定）

13:30	開場
14:00	開会 開会挨拶（伊藤学司文化庁長官、ジャン・ポール・ワルムーズ Myriad USA CEO）
14:10	基調講演 1：アクセル・リューガー氏（フリック・コレクション館長）
14:40	事例紹介 1：大橋達也氏（東京国立博物館 経営企画室 ファンドレイジング担当） 事例紹介 2：菅谷富夫氏（国立新美術館長） 事例紹介 3：アリシア・ロマニン氏（アーツ・センター・メルボルン開発担当エグゼクティブ）
15:25	休憩
15:40	Myriad USA 紹介：リ・トラン氏（Myriad USA アジア太平洋担当ディレクター）
15:50	パネルディスカッション・質疑応答 ※モデレーター：吉見俊哉氏
16:55	閉会挨拶（吉見俊哉文化経済部会部会長、國學院大學教授）
17:00	閉会

※オンライン配信はありません。イベント終了後、アーカイブ動画が視聴できます。（公開時期未定）

■ 登壇者（敬称略・登壇順）

Axel Rüger (アクセル リューガー)	フリック・コレクション館長
	ドイツ・ドルトムント出身。2019 年から 2024 年までロンドンの王立美術 院館長を務め、2025 年 3 月よりニューヨークのフリック・コレクション館長に 就任。欧州における文化機関のファンドレイジング黎明期から第一線で 活躍し、欧州の主要な美術館・博物館のために米国を含む国際的な寄 附・資金調達活動を主導してきた。文化機関の持続的な運営や資金調 達戦略に関する世界的な知見を有する。
大橋 達也 (おおはし たつや)	東京国立博物館 経営企画室 ファンドレイジング担当
	新潟県出身。株式会社 ADK マーケティング・ソリューションズにて長年に わたり広告ビジネスに携わった後、2024 年に東京国立博物館へ着任。 現在は、ファンドレイジングを中心とした経営企画業務を担当している。准 認定ファンドレイザー（日本ファンドレイジング協会）に加え、中小企業 診断士、AFP（日本 FP 協会認定）などの資格を有し、広告、経営、 財務に関する幅広い知見を基にファンドレイジングに取り組んでいる。
菅谷 富夫 (すがや とみお)	国立新美術館長
 画像提供：国立新美術館	1958 年千葉県生まれ。財団法人滋賀県陶芸の森学芸員、大阪市立 近代美術館建設準備室学芸員、大阪中之島美術館館長などを経て、 2026 年より国立新美術館館長に就任。大阪中之島美術館にて、民 間の資金やノウハウを活用する PFI コンセッション方式による美術館運営 を実践してきたなど、文化施設の新たな運営手法に関する豊富な知見と 実績を有する。
Alisia Romanin (アリシア ロマニン)	アーツ・センター・メルボルン開発担当エグゼクティブ
	オーストラリア・メルボルン出身。2015 年から 2024 年までメルボルンの ラ・トローブ大学に勤務し、2 億豪ドル規模の資金調達キャンペーンの戦 略・実務を統括。現在はアーツ・センター・メルボルンの開発担当エグゼク ティブ・ディレクターを務める。大学、外交、企業、政府の各分野におい て、フィランソピー、パートナーシップ構築、関係者との連携に幅広い経 験を有する。

■ モデレーター（敬称略）

吉見 俊哉 (よしみ しゅんや)	文化経済部会部会長、國學院大學教授
	社会学者。1957 年、東京生まれ。國學院大学観光まちづくり学部教授、東京大学名誉教授。上演論的アプローチから都市論、メディア論を展開、日本のカルチュラル・スタディーズで中心的な役割を果たしてきた。最新の著書は、『自己との対話 —— 社会学者、じぶんの AI と戦う』（集英社新書）。

■ Myriad USA

Myriad USA は、グローバルな慈善活動のための全米有数のリソース提供機関であり、個人、家族、企業、財団が世界規模で寄付を行うにあたって、文化、法律、税制、規制上の複雑な手続きを円滑に進められるよう支援しています。米国の公的慈善団体（Public Charity）である Myriad USA は、世界中の非営利団体の財政スポンサー（Fiscal Sponsor）としても機能し、それらの団体がアメリカの寄付者から税控除対象となる寄付を受け取れるようにしています。2025 年には、Myriad USA を通して、世界 103 カ国の 1,075 の団体に対して過去最高となる総額 1 億 9,500 万ドルの助成金が提供されました。

芸術と文化は、Myriad USA のグローバルな取り組みにおいて重要な位置を占めています。弊財団は、ゴッホ美術館、アムステルダム国立美術館、西オーストラリア博物館、そして東京国立博物館など世界中の多くの美術館・文化機関と提携しており、世界の芸術および文化遺産を保護、そして広く共有しているこれらの機関を、米国からの寄付を通じて支援する手助けをしています。

<https://myriadusa.org/>



■ お問い合わせ

PwC コンサルティング合同会社（E-mail: jp_cons_ps_contentsteam@pwc.com）

<担当>

文化庁文化経済・国際課

林、堀口、足立

03-5253-4111（代表）※内線:4855

kei-sai@mext.go.jp